



園芸課
齊藤 万祐

次年度の野菜栽培に向けた

～連作障害の対策～

同じ場所で長年野菜を栽培すると「連作障害」が起ることがあります。

同じ「野菜」、または同じ「科」に属する野菜を同じ場所で数年続けて栽培することを連作といい、連作により起こる障害を「連作障害」と呼びます。

【連作障害の原因】

①【病害虫の増加】

連作により、その作物を好む土壌病害虫が増加しやすい環境が整ってしまいます。

②【土壌の物理性・化学性の悪化】

同じ場所で長年野菜を栽培すると必要な要素が吸収されるため、土壌中に特定の肥料分のみが失われてしまいます（欠乏症状）。又、植物にとっていらぬ要素が土壌中に蓄積されます（過剰症状）。

【連作障害を回避するために】

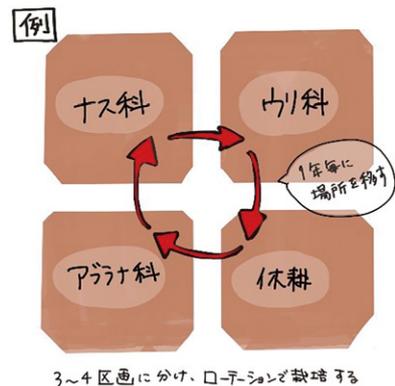
同じ場所に植える作物を順番に変えていくことを「輪作」といい、輪作をすることで連作障害を軽減することができます。

また、同じ場所で同じ作物を栽培する際に空ける期間「輪作年限」があり、連作年限は各作物により異なります。

下表A「作物ごとの輪作年限表」を目安に輪作に取り組んでみましょう。

表A 「作物ごとの輪作年限表」

期限	作物
1～2年	オクラ、キャベツ、キュウリ
2～3年	カリフラワー、ジャガイモ、サヤインゲン
4～5年	ピーマン
6～7年	スイカ、ナス、トマト
連作障害少ない	カボチャ、サツマイモ、トウモロコシ



※野菜によっては科や種類が異なっても、連作するには相性の悪いものがあります。（例…トマト↓キュウリの後作は相性が悪い、など）

【作物の「科」にも注意】

違う野菜であっても、「科」が同じ野菜では、連作障害が起こってしまいます。

例えば、トマト（ナス科）↓ピーマン（ナス科）↓ジャガイモ（ナス科）と変えても、この3つの野菜はすべてナス科であるため、連作障害が起こることになります。

野菜を栽培していて、「生育が悪い」「株が萎れた」「前より収穫量が少なくなった」などの症状が出た方は、輪作を検討してみてください。